

■ リージョナルシアターが地域を超える日

「巡演」

の可能性を高めるために、いっしょに考えてみませんか？

演劇が身近な存在になれば、アートも近くに見えてくる。

現在では地域発の作品づくりも盛んになり、地域を超えた演劇人の交流も活発になっています。次のステップとして必要なのは、その環境を継続させるための興行システムの確立です。劇場でのつくり込みを必要とする演劇公演の場合、プロモーター、公共ホール、演劇鑑賞団体いずれかによる買取公演に巡演は限られ、しかもそのほとんどが東京発という「中央からの出荷状態」が続いています。他ジャンルの舞台芸術に比べ、その地域以外へ伝播していかないのが演劇の構造的課題になっていると言えます。本セッションでは、斬新な試みでこの課題に挑戦している芸術団体と制作者を各地から招き、演劇が地域間を巡演するにはどのような環境が必要か、送り出す側と受け入れる側に求められるものはなにかを議論します。さらに、現在進行形の若手事例もケーススタディとして紹介します。演劇という装置産業的性格を持つ表現で巡演が可能なら、どんなジャンルでも応用が利くはずです。会場に集う幅広い分野のアートマネジャーと共に、この課題を考えたいと思います。

○パネリスト

齋藤ちず NPO法人コンカリーニョ理事長 (札幌)
谷瀬未紀 ピカラック (北九州)
井神拓也 ヨーロッパ企画制作 (京都)
詩森ろば 風琴工房主宰、TOKYOSCAPEフェスティバルディレクター (東京)

○ケーススタディ報告

森 忠治 tripod (仙台)

○司会

荻野達也 **fringe**プロデューサー (東京)

2007年3月3日(土) 14:00~15:30 トヨタ自動車東京本社ビル(文京区後楽1-4-18)